

秋の和歌について



「奥山に 紅葉踏み分け 鳴く鹿の
声聞くぞ 秋は悲しき」

現代語訳

山深いところで、鹿が紅葉を踏み分けながら鳴いている。
その声を聞くと、秋という季節がなんとも寂しく感じられる。



平安時代の初期ごろの歌とされていて、
作者の猿丸大夫は不明な点が多い。

Q.なんで鹿なのか？

→昔の人にとって秋は鹿の鳴き声が聞こえる季節だったから。



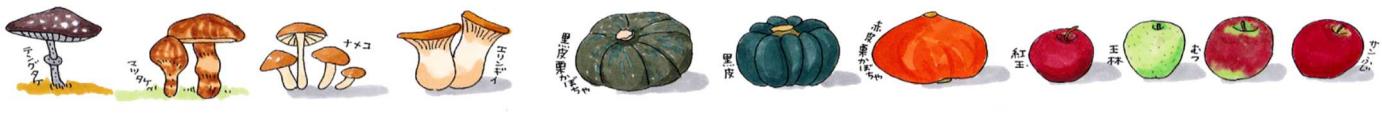
特に雄鹿は秋になるとよく鳴く!!

☆紅葉と鹿で秋の美しさを表現している

参考:「原色小倉百人一首」鈴木日出男／共著 山口慎一／共著 依田泰／共著(文英堂)

ティーンズスタッフ:さわやかラムネ

【 発行】諫早図書館（TEL：23-4946） 【 協力】諫早図書館ティーンズスタッフ



～中高生むけ図書館だより～

OWL　NEWS

Vol.41



２０２６．秋号（２０２６．１０月発行）

ティーンズスタッフ:ばばはる

わたしたちのおすすめ本

『 とわの庭 』 小川糸／著(新潮社)



盲目の少女とわは、母と二人暮らし。母の声、母の教えてくれた季節の流れ、庭から聞こえるクロウタドリの合唱団の歌、水曜日のオットさんの訪問。
家の外へ一度も出たことのない彼女にとって、それらが彼女の幸せであり、彼女の全てだった。しかし突然、母が仕事に行くことになる。最初は、週に一回だった仕事が、二回、三回と少しずつ増えていった。ある朝、母の帰りを待つことに限界を迎えた彼女は初めて自分の足で外へ出た。外の世界はたくさんの光であふれていた。今までとは比べ物にならない程たくさんの人と出会い、たくさんの物事を知る。相棒である盲導犬ジョイと共にはじまる彼女の新たな物語。

(ティーンズスタッフ:かばやき)



『 成瀬は天下を取りにいく 』 宮島未奈／著(新潮社)

滋賀県を舞台に主人公の友人成瀬あかりが我が道を疾走する青春小説！！大胆かつ自由気ままな成瀬の挑戦は、周囲の人の心を動かしてゆく。
あなたはどこの天下を獲りに行く？

(ティーンズスタッフ:ぽんた)

『 傲慢と善良 』辻村深月／著(朝日新聞出版)



西澤架には婚約者がいる。架に心配かけるようなことは絶対にしない真面目で律儀な人だ。その婚約者・坂庭真実がある日、突然失踪した。彼女の居場所を探すため、架は真実の過去を探っていくことになる。
この本の大きなテーマは「結婚」だ。様々な登場人物の恋愛観や人生観が主人公の価値観を揺るがしていく。果たして物語はどのような結末を迎えることになるのか。タイトルの「傲慢」とは、「善良」とは何のことなのか。
おすすめは序盤の小野里という人と架が話すシーン。小野里の言葉は、きっとあなたを唸らせる。ぜひ読んでみてください。

(ティーンズスタッフ:ししゃも)

～イベント参加報告～

○子ども読書リーダー養成講座に参加しました！（7/25）

長崎県主催の子ども読書リーダー養成講座で、約30人の小中学生の前で、推し本紹介や POP 作成のアドバイス、ティーンズの活動報告を行いました。









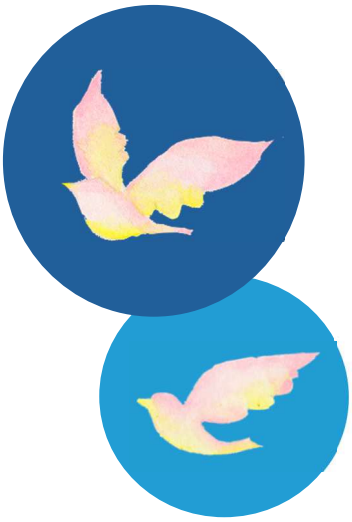


○夏の朗読会に参加しました！（8/8）

平和への願いを込めて、図書館員と一緒に詩や絵本の朗読を行いました。







さまざまなイベントに参加しています。興味のある方は、諫早図書館までお尋ねください。